

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802

FAX (0263)51-1290

E-mail: sogokyoiku-kikaku@pref.nagano.lg.jp

目次

「調査研究事業の報告について」…………… p.1

「調査研究事業の報告(調査研究Cチーム)」…………… p.2,3

「調査研究事業の報告(調査研究Dチーム)」…………… p.4,5

「調査研究事業の報告(調査研究Eチーム)」…………… p.6

調査研究事業の報告について

しのめ178号(2月号)・しのめ179号(3月号)では本年度の総合教育センターにおける調査研究事業の成果をお伝えします。

3月末には、関連する資料等もセンターホームページに掲載します。是非ご覧いただき、参考・活用していただければ幸いです。

教育センターホームページ(URL): www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp

長野県総合教育センター
Nagano Prefectural Comprehensive Education Center

〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4
☎ 0263-53-8800 (代表)

POWERED BY 

サイト内検索



HOME



総案内



研修/生徒実習



学校支援



調査研究



教育情報



教育相談



ダウンロード



アクセス

HOME ▶ 調査研究

「調査研究」のページ
に掲載します。
(3月末予定)

調査研究の目的

各学校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう、教師による指導方法や指導体制の工夫、改善等が進められている。日々の忙しさから、個に応じた教材・教具の準備が追いつかない現状があるが、近年、学習者用デジタル教科書や CBT 等、様々なデジタルコンテンツを活用し、こうした課題を解決しようとする 取り組みがみられる。

その一つとして、「※MEXCBT (メクビット、以下 MEXCBT)」(文部科学省 R4.12 月から) の運用が始められている。ここでは、MEXCBT が学校現場での活用につながるように、

1 いつ、どのように使えそうか

2 学習した内容の定着度を確かめる場面での活用

3 授業中の学びを生かし作成した問題を用いて、学びの過程を振り返る活用

の 3 点から理解を深め、考察した。

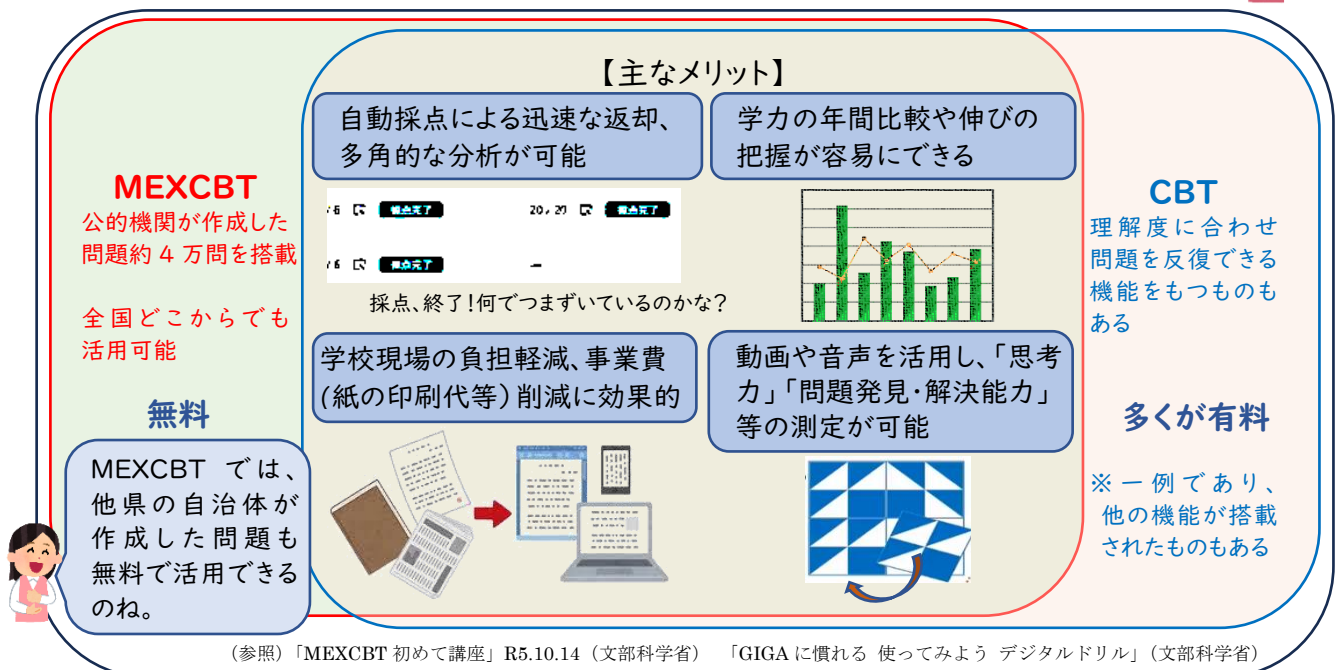
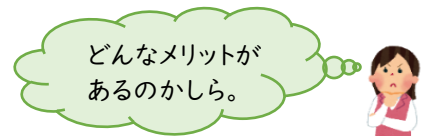
(※「MEXCBT」: 文部科学省の略である「MEXT」と、Computer Based Testing (コンピュータ使用型調査) の略の「CBT」を掛け合わせた造語)



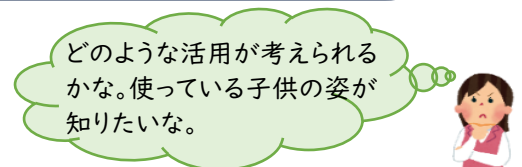
調査研究の内容

1 いつ、どのように使えそうか

文部科学省の資料や全国の実践事例をもとに、MEXCBT や CBT のメリットを整理したのが下の図である。

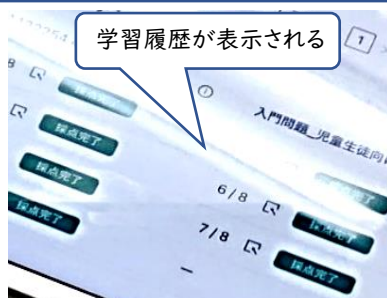


図に示したメリットを生かし、指導の効果が高まるように、学校や子供の実態に合わせて、様々なデジタルコンテンツを使う場面や学習スタイル等について工夫していくことが大切である。



2 学習した内容の定着度を確かめる場面での活用

【事例1】 3、4年生（複式学級） 総合的な学習の時間＋理科 「生き物図鑑を作ろう」
生き物図鑑を作るために単元の中で学んできたことを確認する場面



分かったこと

先生が確認問題を配信
↓
児童が自分のペースで取り組む
↓
すぐに結果を確認できる

この使い方は、家庭学習にもよさそう！



各学校での活用を進めるには、まず、授業において知識・技能の定着に向けたドリルとしての活用から始め、さらに家庭学習等の授業外での活用につなげることも考えられる。

自動採点の機能によって、教師は、その場で子供の学習の定着度を確認できるため、全体指導や個別指導を充実させやすくなる。

3 授業中の学びを生かし作成した問題を用いて、学びの過程を振り返る活用

【事例2】 5年生 英語 「UNIT6を復習しよう」
今年度の全国学力・学習状況調査の問題をヒントに、担任の先生が作成した「話すこと」の問題に取り組む場面

分かったこと

子供が授業の中で使用した資料や言葉、描いたイラスト等を用いて、実際の学びをベースとした問題の作成ができる。
子供たちは、自らの学びの過程を振り返ることができる。



☆「英語」（5年生）の授業で、子供からこんな声が聞かれました



「市販のドリルは決められた問題をやるしかないけれど、MEXCBTでは先生に頼むと問題を送ってくれるから、**やりたい問題にたくさん取り組める。**」「英語は、聞いたり自分で話したりできる問題の方が、**ワクワクするし、楽しい。**」

「自分で選んで、決めた」という主体性の発揮が、子供の取組の意欲につながりそう。パフォーマンステストもできそうね。



MEXCBTの活用によって、「もっとやりたい」という気持ちで取り組んでいる子供たちの姿がある。子供が振り返りを踏まえて、次に取り組む内容や量、時間などの学習計画を立てることで、主体的に学習に取り組む姿につながる。子供が学習計画に沿って問題を選択できるように、教師は、標準的な問題と発展的な問題を示したり、子供が選択した理由を記したりできるような工夫をすることが大切である。

まとめ

子供が自分の取り組む内容や量、時間などの学習計画を立て、学習の調整ができるようになることで、学びに向かう力、人間性等の資質・能力の育成につながる。MEXCBT（CBT）だけ活用すればよいというのではなく、既存の教材・教具や今までの指導方法等と組み合わせることによって、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにつながるだろう。

子供が主体的に追究していく学習や、学ぶことの楽しさやよさを感じ、実感を伴った学習において、MEXCBTには大きな可能性を感じている。

MEXCBT、
使ってみようかな。



【視察協力 千葉県君津市立清和小学校（R5.12.18）】

『新たな教師の学び』実現に向けた校内研修の充実

経過

個別最適な学び・協働的な学び・GIGA スクール構想の実現・学習指導要領の着実な実施といった令和の日本型学校教育のあるべき姿や『新たな教師の学び』実現に向けた校内研修の充実を念頭に置き、よりよい研修講座を運営できるように調査研究を進めてきました。

目的

- I 学習コンテンツの質を保证する、
 - II 校内研修も含む研修講座の在り方を構築する、
 - III 受講者のふりかえりを充実させ、教師の学びを可視化する、
- の3点について、具体的な取組をスモールステップで繰り返し、受講者の困り感や課題に寄り添った研修講座の構築・運営を行っていくことを目指します。

取組

I 学習コンテンツの質を保证する。

(1) Google Classroom を用いた研修講座の実施例

研修終了後も活用しやすいコンテンツの提供を目指しました。

高等学校初任者研修対象者の「クラス」を作成し、連絡や課題の提出、成果の確認などに使用した。

【夏期研修Ⅰ(オンライン)】

勤務校において、Zoom で講義を受けた後、各個人が google スライドまたはドキュメントで提出物を作成。Classroom でグループメンバーの提出物を確認しながら Zoom のブレイクアウトルームで研究協議し、まとめをスプレッドシートに記入。

教材を使用しやすい環境で教科研修を行い、他の参加者の提出物等が研修後も確認できるようにした。

【教科指導基礎研修Ⅲ】

模造紙・付せんを用いたグループ協議の結果を、ワールド・カフェ形式(構成員を入れ替えながら自由な対話)で深めた。研修終了後、模造紙を撮影し、Classroom に掲示。他グループの協議内容も閲覧可能にした。

【課題研究研修】

1年間の課題研究の成果をグループごとにプレゼンテーションソフトで発表。全参加者のスライドデータと全グループの発表内容を共有ドライブにおき、確認できるようにした。

(2) 校内研修で活用できるようなワークシートを用いた研修講座の実施例

【キャリア教育 基本(学校力の向上を目指す研修講座)】

○具体的取組

地域素材を生かしたキャリア教育を考えるためのグループワークにおいて、小中高を一貫したキャリア教育の計画案を模造紙に作成

○校内研修での活用例

模造紙と付せんの代わりに、ホワイトボードアプリやプレゼンテーションアプリを利用して、同時編集で行うことも可能。

- ・ 総合的な学習・探究の時間等、学校で一貫した学習計画の作成
- ・ 各教科の学年を横断した指導計画の作成
- ・ その他、特活や健康教育など、3年間を見通した計画の作成



この紙を貼るだけで、校内研修用の模造紙を作成できます。

II 研修講座(校内研修を含む)の在り方を構築する。

(1) 令和6年度は義務キャリアアップ研修Ⅰのまとめとなる機会を設定

令和5年度		令和6年度
全体研修	→	全体研修
ICT活用指導力向上研修Ⅳ	→	教師力向上研修Ⅲ
教師力向上研修Ⅲ	→	教師力向上研修Ⅳ
教師力向上研修Ⅳ	→	課題研究研修(オンライン)

【全体研修】の中に、【ICT活用指導力向上研修Ⅳ】を含め、新たに【課題研究研修】を設けた。

【課題研究研修】

自己課題に基づく実践について、資料を用いて発表し、参加者からフィードバックを得るオンライン講座です。これから更に伸ばしたい力や、克服したい課題を明確にします。研修を通して、1年間の研修をふりかえり、次のキャリアステージ(伸長期相当)につなげます。

(2) キャリアアップ研修Ⅲでの動画や資料の提供

スマートニュース メディア研究所が作成した動画【(1) デジタル時代のメディアリテラシー、(2) ニュースを考える、(3) デジタル・プラットフォームの仕組みとリスク、(4) メディアリテラシーについて】や資料を Google ドライブに掲載し、受講者が校内研修で活用できるようにした。

受講者の声

- 「吟味する」という癖をつけることは、日々の学校生活や授業の中でも実践できると感じた。(小学校教諭)
- お話の内容はもちろん、動画教材が本当にありがたいと思った。(中学校教諭)
- 様々な資料も見せてもらいたいです。(中学校教諭)
- フェイクニュースのクイズがとても参考になりました。(特別支援学校教諭)

Ⅲ 受講者のふりかえり等を充実させ、教師の学びを可視化する。

(1) 事前アンケートの内容を踏まえた実践発表の実施 (高校キャリアアップ研修Ⅱ【教職研修Ⅰ、Ⅱ】)

受講者からのふりかえり

探究型学習を扱う研修を行った際、多くの先生方が探究に関する授業に不安や悩みを抱えていることが判明。【教職研修Ⅰ】

課題の可視化

受講者に事前アンケートを取り、それぞれの持つ、疑問点や課題を明らかにした。【教職研修Ⅱ】

課題を踏まえた研修

実践発表者3名にアンケート結果を伝え、受講者の知りたいことを踏まえて、実践発表をしていただいた。質疑応答の時間で、さらに追究した。

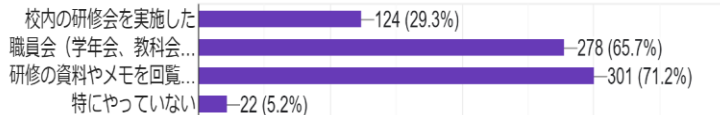
受講者の変容

研修後のふりかえりから、受講者の探究型学習に対する抵抗感が薄れ、積極的に取り組みたいという、気持ちの変化が見られた。

(2) 義務教頭マネジメント研修でのアンケート調査

今年度、校外の研修に参加した先生が、校内に研修を広める機会がありましたか。(複数回答可)

423 件の回答



※複数の回答があったもののみ抜粋

センター研修を校内にどのように還元しているのかを調査した結果、校内の研修会を実施した学校は 30%、職員会(学年会、教科回答を含む)で発表した学校は 65%、研修資料やメモを回覧した学校は 70%あった。

多くの学校で、何らかの形で研修内容を広める機会をとっていることがわかる。校外の研修に参加した先生方が、学校に戻ってその内容を広めることは、学んだことを自分の言葉で表出することで、より研修が充実したものになるだけでなく、学校全体の教育力を高めることにもなる。帰校後の実践に加え、校外研修での学びが同僚と共有するための校内研修等につながるようにしていきたい。

成果

校内研修の充実を念頭に、令和 5 年度の研修講座では、帰校後に校内研修でそのまま活用できるワークシートや動画等を作成し、受講者の皆様に提供してきました。紙での配布や Google Classroom・ドライブでの共有等を行いましたが、アナログ・デジタルともに、それぞれのよさがあることに気づきました。また、研修講座のふりかえりや事前アンケート等を回収し、研修講座の運営・構築に生かすことで、受講者の困り感や課題に寄り添うことができ、その後の受講者の深い学びにつなげていくことができると実感できました。

課題

講座のねらいやグループワークの意図を十分に伝えることができていないと、その後のワークシートの活用が進まなかったり、全校(校内)に研修内容を広げ、普及させることが難しくなったりすると分かりました。

今後も校内研修を充実させるために、来年度も当センターの研修講座において、各講座のねらいを明確にし、受講者の困り感や課題に寄り添った具体的な取組を進めてまいりますので、各講座を受講した際には、講座のテキストやワークシート等を活用し、校内研修(校内への普及活動)を推進していただけると幸いです。

研究テーマ「児童生徒理解を深めるために ～教職員の児童生徒理解を支援する～」

調査研究の経過

生徒指導・特別支援教育部では、受講者のアンケートから、要望の多かったテーマについて、校内や個人で研修できる動画を制作し、HPで公開しています。本年度は、① 研修用動画の活用状況の検証、② 研修用動画・資料の制作 を主とした先生方の児童生徒理解を支援するための調査研究を進めました。

調査研究の内容



①「気になる生徒は『困っている生徒』への捉え直しに気づけた！

研修用動画「ここが知りたい！クラスの中の気になる生徒の指導・支援 ～高等学校編～」の公開と検証

実際にこの研修用動画を活用し校内研修を実施した学校で、研修を振り返る声をお聞きました。

A先生：「急げているのではない。何かに困っていてそのように見えているのかもしれない。」

このように、見方・考え方を変えるとまだまだできることがあるとわかりました。」

B先生：「言葉で伝えるだけでなく、視覚的に示したり、確認する方法を提示したり、確実に伝わるのが大切である。とくに学びやすい環境はやはり大切である。」

このように、「本当は困っているのかも知れない」と捉え直すことの大切さや困りを理解し学びづらさを支える支援の必要性に「気づけた」「改めて気づけた」といった声をお聞きすることができました。先生方も生徒をどう捉え、支援していけばよいのかを考えるきっかけとなり、動画の活用の有効性を確認することができました。



②「ふりかえりシート」を使って、これまでの取組をふりかえってみませんか？

「すべての生徒が学びやすい環境づくり」に向けて～ふりかえりシート～とその活用動画の制作

「すべての生徒が学びやすい環境づくり」に向けて
ふりかえりシート



観点	ふりかえりの項目	チェック
授業前	学習 集中して取り組める環境づくりを心がけている（整理整頓、気になる音や掲示物の除去 等）	
	習 必要な情報が分かりやすく提示されている（日課表・進路情報・テストや提出物の連絡 等）	
	環境 視力、集中心、人間関係等 実態に応じた配慮をして座席や班を設定している	
	安心 授業中に安心して間違えたり、分からないことを質問したりできるよう意識している	
	安心 つまずきのある生徒の様子や有効な支援を教師間で情報共有している	
	環境 いつもと様子が違う生徒や普段目立たない生徒にも意識して声をかけている	
環境	相談を受けていなくても、生徒が抱く困りや願いに目を向けている	
	苦手さへの対応を考えるだけでなく、本人の得意なことに着目して支援を検討している	

「気になる生徒の姿は『困っている生徒』かも」

「やる気がない」と思われる生徒の姿は、「困っている」生徒の姿かも…と捉え直してみましよう。困りの背景にある学びづらさが分かれば必要な支援が見えてきます。ちょっとした配慮で学びづらさを支える支援につながるような観点を「ふりかえりシート」（左）にまとめました。先生方の気になる生徒の支援の参考にしてください。

研修用動画の活用方法

最新の調査では、すべての県立高校に発達障がいのある生徒が在籍していることや、中学校特別支援学級卒業者の約8割が高校に進学していることが示されており、高校における特別支援教育に係る支援力の向上や支援体制の充実が急務であるといえます。

「ここが知りたい！クラスの中で気になる生徒の指導・支援 ～高等学校編～」は、「いつでも、どこでも、わずかな時間で」「個人でも、グループでも」研修できるように、1本あたり5分前後にまとめた短編動画全4編を公開しています（第4編は近日公開予定）。どの高校にも共通する「授業」に焦点を当てて生徒理解や支援の方法などについてミニワークを交えながら理解を深めていきます。気になる生徒の理解や支援にお役立てください。

研修用動画や資料はこちら

☞長野県総合教育センターホームページ

教育情報→特別支援教育 校内研修・研修用資料 [1]クラスの中の気になる子の指導・支援